「日々の理科」（第 2967 号） 2022,-9,21

「チャダイゴケを発見！」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

１年生の子どもたちと、久しぶりに大学構内の自然を見ながら散策してみた。子どもたちはクリの実やクズの花、ヒガンバナやカラスウリの花など、たくさんの「小さな秋」を発見し、とても楽しそうだった。

附属図書館前の「カツラ」の木の植え込みで、子どもたちが何か発見したようだ。「先生、地面にハチの巣みたいのがあるよ」「でもハチなんかいない」・・・「ハチの巣？」何だろう？

近づいてみると、確かに壊れたハチの巣のようなものが落ちている。しかしハチの巣にしてはちょっとおかしい。室が六角形をしていないし、それぞれの質に何か黒っぽいものが入っている。これはハチの巣などではなく、実はキノコの一種とすぐにわかった。しかし、かなりキノコに詳しくないと、気づかないだろう。

これはチャダイゴケという仲間のキノコの一種だ。チャダイゴケ（茶台苔）という名がついているが、コケの仲間ではなく、真菌類（担子菌類）の一種である。

革質で漏斗状の外皮の中に、黒い大福のような内皮に包まれた胞子嚢がたくさん入っている。外皮の内側にスジがあるものは「スジチャダイゴケ」というが、このチャダイゴケにはスジがないので、「ハタケチャダイゴケ *Cyathus stercoreus*」という種類だろう。

子どもたちは、この奇妙な「未知の生物」に全く臆することなく、手にとって観察し、多くの子どもは持参のポリ袋に大切そうに入れて持ち帰っていた。